

戦後80年記念 中学生広島派遣事業 福島市中学生平和大使 参加報告書



派遣期間 令和7年8月5日～7日

主な行程

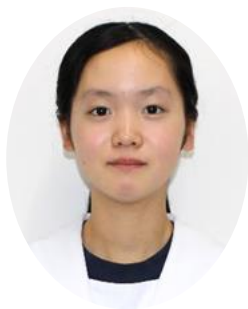
5日 広島平和記念公園、平和記念資料館 見学

6日 平和記念式典 参列

第1回全国こども平和サミット 参加
フィールドワーク

7日 第1回全国平和学習の集い 参加





「 広島に行って変わった私 」

福島第一中学校 菅谷 菜々子

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が派遣事業に参加した理由は、教科書からは学べない戦争を学びたいと思ったから。なぜなら教科書には被爆者の想いが書かれていなく、その時の状況がイメージしにくいから。私は何が起きたか、どのような状況だったかを自分の目で見て、自分の耳で聴きたかったから参加した。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が心に残ったことは 2 つある。

一つ目は被爆者「梶矢文昭」さんの被爆体験だ。文昭さんには姉がいた。姉は一度疎開したが、家族と一緒にいたいと願ったため帰ってきた。姉が帰ってきた 4 日後のことだ。突然空から一発の原子爆弾が落ちてきた。その直後は家の下敷きにされ、必死に瓦礫の中から出て見た光景は大火傷をして川へ向かって歩いている人々の悲惨な光景だった。文昭さんの母はガラスの破片が約 50 個刺さった重傷。そのうち一つは目に刺さり片目が失明。姉は、亡くなってしまった。私は家族と離れて生活しなければならない状況、家族を失うような状況にならないよう、この話をもとに後世に伝えていきたい。

二つ目は詩の朗読です。「今井泰子」さんの被爆体験、「僕は一番初めにここに着いたのですが、まだ、番が来ないのでしょうか」と重傷の状態で治療を待っている少年の話。少年は水を求めていたので、水をあげ、そのまま息を引き取った。もうこのような悲惨な死に方をする人は見たくない。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私はこの三日間で学んだ「戦争」を家族、友人、学校の職員、全校生に伝えたい。私の「平和」への最初の考え方は個人個人が自分らしく生きていける世界だったが、この考えにこの派遣学習を終えて少し付け加えたいことがある。今私が思う平和は、食べるもの、家族、友人が全て揃っていて、明日生きているという確信が持てる、今の日常だと思う。悲しいことに私が今平和と思っている状況になっていない国がまだたくさんある。今の私にできることは、自分がこの三日間で学んだことを後世に伝えていくことのみ。

この事実を後世に伝えて、歴史をつないでいく。





「 やっぱ戦争は…。 」

福島第二中学校 高野 朱梨

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私がこの派遣事業に参加したきっかけは、原爆がなぜ落とさなければいけなかったのか、原爆が落とされる前と落とされたあとでは何がどう違うのかなどを実際に広島に訪れ、詳しく学び、感じ、二中の生徒やたくさんの人々に伝えることでみんなに『戦争』とは『平和』とは何か。」と考えてもらいたいと強く感じたからです。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が心に残ったことは 3 つあります。

一つ目は、内藤慎吾さんの被爆体験です。慎吾さんは防空壕の近くにいたカニを追いかけたため原爆の影響をあまり受けなかったと言うことを聞き、「ほんの少しの行動で生きるか死ぬかが決まるのか。」と考え、人はいつも死と隣り合わせということを知りました。それから、慎吾さんが防空壕を出た時にお父さんが空を見たまま黒こげになっていたということから原爆の爆発は、どれほど一瞬のものだったかということも知ることができました。

2 つ目は、平和記念資料館でふと目に入った「行ってくるよ」と言って別れたのが最後でした。」という女性の言葉です。この言葉をみて、「大切な人との別れは突然くるかもしれないのか。」と感じ、「これからは今周りにいる人との 1 秒 1 秒を大切に過ごそう。」と思いました。

3 つ目は、先生の「一人一人にエピソードがある」という言葉です。このことを聞いた時とても心が動きました。事前学習で、福島に落とされた模擬原爆により、一人の少年が亡くなってしまった。という話を聞いた時、正直「一人か。」とほんの少し軽く受け止めてしまいました。ですが、先生の言葉を聞いてからは、「人が亡くなってしまったのか。」と人数にとらわれず、その人にもその人の大切な人、もの、人生が、『エピソード』が、あったと考えるようになりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

やっぱり戦争は恐ろしい。戦争をしていいことなんてない。たくさんの人が苦しむだけ。そのため私は、あのときのような悲惨なことが二度と起こらず、この世界のどこかにある戦争がなくなり、世界のみんなが笑顔になれることを願って、たくさんの人々に戦争や原爆の悲惨さを伝えていきます。





「いつまでも忘れてはいけない
～To prevent this from happening again～」

福島第三中学校 永山 咲

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私は、世界の笑顔を増やすことが将来の夢のひとつでした。自分の耳と目で、当時の状況、平和についての考え方、復興していった街を知ってみたいなどと少し思っていました。その時たまたま先生に声をかけられて、いいきっかけになるかなと思い、この派遣事業に参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

1つ目は平和記念資料館を見学したことです。自分の目で当時の状況を知りました。破れたモンペや苦しんでいる人たちの写真が自分の目の前にうつしだされたとき、すごく心が痛くなりました。破壊される前のまちと破壊されてしまったまちを見比べました。一瞬で当時の日常が消えてしまったのが目に見えました。

2つ目は被爆者の話を聞いたことです。今度は自分の耳で当時の状況を知りました。「あの時の判断が違ったら私が死んでいた、そう言っている被爆者の方は、少し悲しそうな顔をしていました。」その時の判断が違っただけで生死が決まるなんて酷い世界だなと思いました。

3つ目は全国の学生たちの平和への取り組みを聞いたこと、そして全国の学生たちと意見交流をしたことです。広島の方の合唱中のメッセージ、私には何か強い力を感じました。そして全国の平和への取り組み、自分の中学校でも実践できることがあったら自分から声をあげてできるようにしたいです。広島だけでなく、各地域でもいろんな被害があったことを知りました。やはり、今平和ではないことは「いじめ」や「差別」です。相手が嫌だと思ったときからそれはいじめとなります。そのためにもどうすればいいか、班で話し合った結果、いじめについての会を設けたり、人権を守るために、個性を尊重し合うために、意見が違ふ人と対話をしたり私服で登校したりしてみるなどの意見が出ました。全国の学校でいじめがなくなればいいなと思いました。

私は戦争を経験してないですし、意見交流をした人も、引率の方々も経験していません。だからこそ今の私たちに何ができるかどうかやったら平和な世界が生まれるか、今回の派遣事業を通してとても深く考えるきっかけとなりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

平和に対する考え方は参加する前とあまり変わりませんでしたが、全国の各地に自分と同じ考えの人がいたことで参加する前よりも自信を持って自分が思う「平和」を言えるようになりました。

“平和とは当たり前の日常があり、互いに尊重しあって笑える環境があること”

私は学校での発表で、まだ自分の目で見ていない人に耳で伝わるように話し方や身振り手振りを工夫して、自分が撮ってきた写真をもとに平和や戦争について話せるようにしたいです。





「 広島に行って学んだことについて 」

福島第四中学校 関根 幸

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

僕がこの福島中学生広島派遣事業に参加した理由は、少ししか戦争について知らなかったのでこの派遣事業を通してもっと原爆の悲惨さなどを知りたいと思ったからです。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

僕がこの派遣事業を通して心に残ったことは2つあります。

1つ目は、1日目に行った平和記念資料館です。なぜかというところでは、原爆の影響で黒焦げになった少年のお弁当やボロボロになった衣類の展示などさまざまな原爆の被害や後遺症を学べたからです。

2つ目は、フィールドワークです。フィールドワークでは僕たちの班は広島城と宮島に行きました。広島は、原爆を落とされて焼け野原になり大きな建物が立っていないと思っていましたが広島城や宮島に行く最中とても大きなビルがあり「こんなにすぐに復興するのか」と思いました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

この経験を学校などさまざまな場所で生かしていじめや差別など、まずは自分にできることから始めていって身近なところから平和にしていきたいです。そしてこの経験を学校の友達に伝えていきたいです。





「ヒロシマを知って」

岳陽中学校 栗原 彩音

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が広島派遣事業に参加したきっかけは 2 つあります。1 つは、戦争を体験した曾祖母の話を小さい頃から聞いていたため昔から戦争に興味がありました。もう 1 つは、平和への理解を深めたいと思ったからです。平和とは具体的に何なのか理解を深めたいと思いました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が派遣事業に参加して心に残ったことは 2 つあります。

1 つ目は平和記念資料館見学です。原子爆弾が落とされた直後の街の様子、人々の様子、見学を進めれば進めるほど胸が締め付けられるものばかりでした。

特に胸が締め付けられたのは、被爆した方々の絵でした。

一瞬にして街は破壊され、多くの人々が何が起ったのかも分からないまま命を奪われました。生き残った人々も、火傷でパンパンに膨れ上がった顔、だらりと垂れ下がった皮膚、変わり果てた姿で炎の中を逃げまどいました。

2 つ目は、被爆者の方々のお話です。被爆者の方のお話を生で聞けるという貴重な体験をさせていただきました。

被爆者の方々の言葉 1 つ 1 つが心に深く響きました。戦争の悲惨さを直接体験された方の声は、とても重みがあり、教科書や映像からでは決して得られないものでした。

愛する家族を失った悲しみ、原爆への憎しみが伝わってきて、私も涙が出そうになりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私は今回の派遣事業を通して、戦争の恐ろしさと命の尊さを改めて強く感じることができました。原子爆弾は一瞬にして尊い命と美しい街を奪いました。

今も戦争や紛争が世界で起こっていますが私たちが広島で学んだ原爆の事実を身近な人から伝えていこうと思います。この戦争のあやまちを二度と起こさないために。



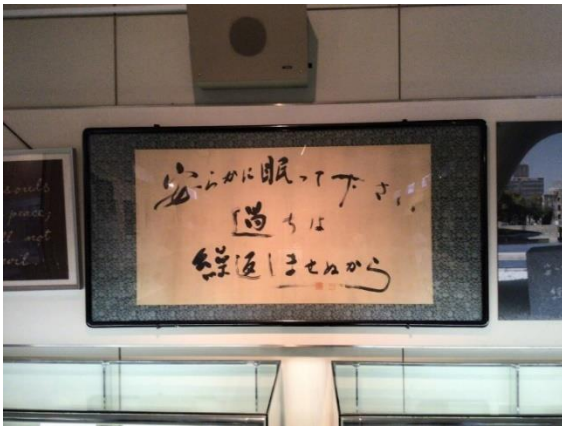


「 平和について 」

渡利中学校 建部 結星

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

僕がこの派遣授業に参加したきっかけは平和とは何かを知るためです。僕は、広島・長崎に原爆が落とされた日、第二次世界大戦が行われていたときに生まれていないので当時の状況や人々がなぜ平和を求めるのかを詳しく知りませんでした。その知らないことをインターネットなどで調べた情報だけでなく、実際に広島に行き、自分の目と耳と心で感じたいと思い、この派遣学習に参加しました。



【派遣事業に参加して心に残ったこと】

僕が派遣授業に参加して心に残ったことは2つあります。

1 つ目は、被爆者の方々の話を聞いたことです。僕たちは、被爆者の方々に福島での事前学習会や広島での第1回全国平和サミットなどで話を聞きました。話はどれも楽しい話ではなく、正直、聞いているのが辛いようなリアルでとても悲しい話でした。しかし、被爆者の方々はその話を悲しい話だけで終わらせず、この話を世界に発信し、3 度目の原爆を絶対に落とさせない、核を作らせないというように前を向いて未来について考えていて驚きました。この話を聞いた以上、僕もこの話を受け継ぎ、平和を訴えていきたいと思いました。

2つ目は、全国平和学習の集いでのグループディスカッションです。この集いでは、それぞれの県から集まった小・中・高校生で平和について話し合いました。その話し合いで出た、どうしたら世界は平和になるのかを最終的には会場の全員で話し合いました。僕はこの集いで行われた話し合いを日本全国さらに世界で行えば世界は平和になると考えました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

僕がこの派遣学習で学んだことはこのように 1 人 1 人がそれぞれ平和について知り、考えれば世界は平和になるということです。僕も初めから核や戦争を失くすことは難しいと思うので、まずは身近な家族や友人、学校のみんなに共有し、平和について考えていきたいと思います。



「 広島で学んできたことについて 」

蓬萊中学校 前田 元

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

僕が「中学生広島派遣事業」に参加した目的は、これまで本やテレビでしか見たことのない被爆地広島に行って、当時何があったのか、どうやって乗り越えたのか、この二つをしっかりと知りたかったからです。そして学んだことを人に伝えたり自分の将来に活かしたいと考えたからです。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

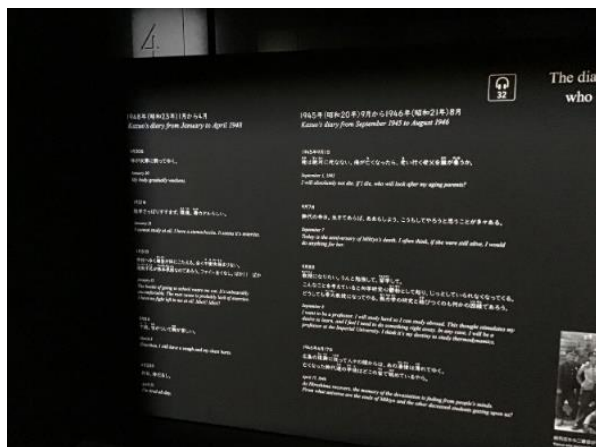
僕が派遣事業に参加して心に残ったことは、平和記念資料館での学びです。平和記念資料館では、被爆者たちの証言によって、作成された絵、原爆の被害によって壊れた建物などが展示されていました。その中でも特に僕の心に残ったのは、「N 家の崩壊」という展示です。働き者の漁師の N さんが被爆し、働けなくなり、その影響が家族にも広がり結局一家が崩壊してしまうという事が書いてありました。また横にはその N さんや娘たちの写真が展示されていて、この人の本当ならあったはずのこれからの人生が突然なくなってしまったのだと思うと、とても悲しくなりました。

また、他にも僕と同学年ぐらいの子の被爆してからの、日記があり、「絶対に死にたくない、生きていろんなことを学びたい」という事が書いてありその気持ちがひしひしと伝わってきました。これを読むと、80 年前のことであっても他人事とは思えず、「もし自分だったら」と考えると恐怖心と悲しさで胸がいっぱいになりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

これまで僕は、勉強や部活動などでうまくいかないと「つらい」、「大変だ」と思うことが度々ありました。しかし、この事業に参加して平和な環境で、好きなだけ勉強や部活動ができることそのものが「幸せなこと」なのだと実感しました。

「戦争はあってはならない」ということを伝えて行くとともに僕はこの幸せな環境を守り、これから勉強する人たちが、安心して勉強できるように、また今安全な環境で勉強できない人たちも安心して勉強できるような、世界にする方法を考えるなど自分が出来ることは何かをしっかりと考え行動したいです。





「 広島派遣学習 」

清水中学校 鈴木 大介

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私がこの派遣プロジェクトに参加しようとした目的は大きく2つある。

1つ目は、今世界各地で起きている戦争や紛争などが起きているが、どうして人間は戦争を始めちゃうのか、平和とはどのようにして成り立っているのか、よく考えてみたいと思ったからである。

2つ目は、広島が原爆でどのような被害を受け、どのように復興してきたのか、この目で一度確かめてみたいと思ったからである。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が派遣学習に参加して感じた、特に心に残ったことは2つある。1 つ目は、1日目に行った平和記念資料館で見た資料である。広島を歩いていると、80年前の原爆が落とされた面影は残ってないと言っているほど、すっかり復興しきっている。しかし、原爆ドームや平和記念資料館では、80年前の惨状を今の人達に伝えている。資料館の中でも印象に残ったのが、1つの家族が崩壊していく様子である。その話をみているだけで心が痛くなってくるのだ。たった一つの爆弾で、たった一時の判断で、広島を、人がどうなってしまうのか、ということを米国は考えることができなかったのかと感じた。

2つ目は、実際の被爆者の話を聞いたことである。今、80年前を生きた被爆者の数が減少していく中、被爆者の話を聞いたことについて貴重な体験をした。ほんとに被爆者の言ってるような状態が広島にまだあったのか、失礼ながら作り話ではないのかと思うほどひどいものであった。

【私の平和への思い、平和への誓い】

自分たちにできることは限られているが、身近にあるいじめの問題などからまず始め、歴史を学び、政治を学び、二度とこのような惨状を起こしてはならないと感じる。





「 広島派遣授業 」

信陵中学校 渡邊 光翼

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

僕が参加したきっかけは自分からの立候補でした。私たちが普段当たり前に暮らしている平和な日本ではどのような過去があり今の日本になったのか知りたいと思ったからです。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

この3日間でたくさんありますがとくに印象に残ったことは二つあります。

1つ目は被爆者の方々からのお話です。広島では2人の被爆者の方に講話をしていただきました。その中で印象に残ったのは梶矢文昭さんの被爆体験です。当時6歳、国民学校1年生、爆心地から1.8キロの荒神町国民学校大須賀分散授業所(臨時の教室)で3年生の姉とともに朝の掃除をしていた時に被爆したそうです。誰も助けに来てくれず自力で死に物狂いで崩れた屋根の上になんとか出ることができ、そこで出会った近所のおばさんに連れられ東練兵場へ、そこで、何十ものガラスが体に突き刺さり血だらけになってうめいている母と、その前の草の上に横たわる姉に再会したそうです。しかし姉は柱の下敷きになり即死だったそうです。梶矢さんの体験話はここで終わりですが僕は1.8キロも離れているのに即死する原子爆弾の威力にとっても恐ろしいと思いました。

2つ目は全国平和学習の集いです。その中でも印象に残ったことは「平和ではない状態とはどのようなことがあるか、またそれはどうしたら解決できると思いますか？」というテーマです。グループで話し合ってまとめた結果、他国と信頼を深め核兵器を使わない、増やさないという意見が出ました。とてもいい意見だと思います。この集いで他の県の方との交流、そしてコミュニケーション力アップ、積極的に発表できるようになりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

この3日間の経験を生かして今後の10月の発表や学校のみんなに戦争の恐ろしさ、核兵器の恐ろしさを多くの人に伝えて二度と戦争をしない平和な世界にしたいです。





「 平和な未来へ 」

北信中学校 野口 香里奈

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が広島派遣授業に参加したきっかけは、祖母との会話でした。ある日、曾祖父が戦争に行ったことを初めて知り、戦争に関わった人が身近にいるんだなと感じたのでこの派遣授業で戦争の悲惨さを自分の目で見て学びたいと思いました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が心に残ったことは大きく二つあります。

一つ目は平和記念資料館見学です。被爆当時の街や、原爆が人々にどんな影響をもたらしたのかを写真や遺品で感じることができました。中でも、熱線でガラスや鉄が溶けてしまった物や、爆風で家が壊れた映像を見たときは、とても衝撃を受けました。展示室に漂う静かな重い空気や、被爆者の遺品の前で立ち止まる人々の姿から原爆が残した深い悲しみを感じました。さらに展示の横には、「助けて」と叫ぶ声や、「目を開けて」と子どもの名前を呼び続ける母親の様子が書かれていました。その短い文章だけで、被爆直後の混乱と絶望が頭に浮かび、胸が締め付けられました。教科書で得た戦争の知識とは違い、実物や証言を通して感じることで、戦争の現実を心に深く刻むことができました。

二つ目は被爆者の方のお話を聞いたことです。被爆者の生の声を聴けたことで、当時の過酷な体験や、その中で必死に生き抜いた人々の姿を思い浮かべることができました。講話の中には、家族を一瞬で失った悲しみや、体中のやけどやけがに苦しみながらも必死に生きた日々がありました。その言葉は静かで穏やかでしたが、その奥にある悲しみと強さが伝わってきました。今の自分が平和な日常を送れていることは決して当たり前ではなく、数えきれない悲しみや苦しみを乗り越えた先に、今の暮らしがあるのだと感じました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

広島での体験を通して戦争の悲惨さを学び、平和の尊さを強く感じました。今も社会にもいじめや差別などの「争い」があることを忘れず、相手の気持ちを思いやることが大切だと思いました。これからは自分が率先して周りの人と助け合い、誰もが安心して暮らせる社会を作りたいです。そして、広島で学んできたことを家族や友人に伝えて戦争の悲惨さや平和の大切さを広げていきたいです。





「 多くの人が知るべきこと 」

西信中学校 石川 六花

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が派遣事業に参加した主な理由は、私は戦争や原爆について教科書に記載されている以上のことを知らず、実際にどのような被害を受けたのか、当時はどのような状態だったのか、どのように広島は復興していったのかということを実際に自分の目で見て確かめてみたいと思ったからです。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が広島派遣事業で心に残ったことは二つあります。

一つ目は、平和記念資料館を見学したことです。平和記念資料館には当時の状況がよくわかる資料がたくさんありました。中でも印象に残っている資料は「絵」です。その絵には原爆による大火傷で皮膚がただれ、血まみれでもう人かもよくわからない人の絵が描いてありました。このような状態の人が何千人も、何万人もいたと考えると原爆の威力、恐ろしさ、どれだけ非人道的な行為かが痛いほど伝わってきました。他にも溶けた瓦礫、まるこげになってしまった三輪車、制服、お弁当箱など色々な物を見て、人々の生活が本当に一瞬にして突然に奪われてしまったのだなと心が痛み、展示品を直視できませんでした。

二つ目は、被爆者内藤さんのお話です。内藤さんのお話で印象に残っているのは「しばらくして防空壕から出てみたら普段は家から見えない山々や島がはっきりと見えた。」というお話です。この言葉が何より原子爆弾の恐ろしさを私に感じさせました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

今回の派遣事業を通して平和は当たり前ではないんだなと思いました。原爆が落とされる寸前まで普通に生活していたのに、たった一発の原子爆弾で一瞬にして人々の平和、日常は破壊され今でも後遺症で苦しんでいる人々がいます。私たちにできることは大きくなく、多くもないけれど二度とこのあやまちを繰り返さないようこの悲惨な出来事を一人でも多くの人に伝えていきたいです。





「 広島に行って感じたこと 」

大鳥中学校 澤田 入史丸

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

派遣事業に参加したきっかけは先生からの推薦でした。最初は自分一人で知らない人と会うことがあると聞いてすごく不安でした。ですがみんなと話していくうちに仲を深めることが出来て良かったです。参加した目的は教科書では学べないことや資料館の中で実際に見てどれだけ悲惨だったかを感じ、その感じたことをより多くの人に伝えることが出来たらいいなと思いこの派遣事業に参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

僕がこの派遣事業に参加して心に残ったことは全国平和学習の集いです。

全国平和学習の集いでは、内藤さんのお話を最初にお聞きし、一つの行動の違いで命が奪われることや爆風などで周囲の建物がぺちゃんこになること、全身に大火傷などをおおったこと、放射線を浴びて数日後に亡くなった方がいることを知って、たくさんの思いを抱きました。

この戦争が2度と起こらないように、そしてこの悲しみを2度とさせないように色々な取り組みを地域の人や知り合いの人に伝えていきます。

みんなが自分の良さを発揮したグループ・ディスカッションでは、違う県の人と意見交流をし、様々な県で起こった被害について知ることができ、すごくいい経験になりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私が考える平和への思いは、全員がお互いのことをよく知り、目を向けづらいものにも向き合い、自分ごとのように受け止め、自分ができる事を探して行こうと思います。

平和への誓いでは、身近な人から輪を広げこの辛かった思いを全世界の人々に発信し、戦争のない世界を作り上げることを誓います。





「ヒロシマを知って」

平野中学校 新村 陽菜

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

元々、父が歴史好きということもあり、太平洋戦争は特に知識をつけていました。

今回の派遣事業を通して、より深く知識をつけるとともに、沢山の方々にそれを発信していきたいと思い、参加させていただきました。

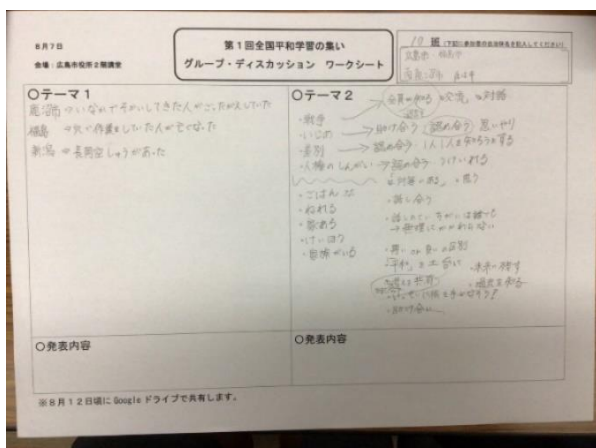
【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が派遣事業で心に残ったことはたくさんありましたが、平和記念資料館にて見学していたところで、口元を手で押さえ絶句している外国人観光客の姿が特に目に留まりました。実際、資料館内に展示してあるものは全て残酷で非現実的な内容ばかりで、私たちですら目を覆いたくなるものでした。その中でも目を逸らさず、ヒロシマの被爆者の方に思いをよせ涙を流されていた方を見て、世界平和というのはこのようなところから痛いほど知ってこそ始まるのではないかと考えました。

また、最終日に行われた第一回全国平和学習の集いで聞いた被爆者の講話内容はとても心を抉られました。最初は 7 人という大家族で平和に暮らしていたのに、たった一発の原子爆弾によって、じわじわと人数が減っていく。最終的には中学 3 年生で家族全員を失うという、全員即死よりもつらいであろう家族の亡くし方をされていてとても胸が苦しくなりました。原子爆弾がいかに恐ろしい兵器なのか、後遺症などで生き残れた方々がどれだけつらい思いで生きてきたのか。考えるだけで胸を締め付けるようなことの数々を経験してもなお、それでも乗り越え私たちに伝え続ける被爆者の方々は、いずれ来る被爆者のいない世界にとって何よりも強く、何よりも貴重なのだと感じました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

今回の平和学習で沢山の人と交流し、沢山の人と平和を考えました。その中で出された結論は、「過去の出来事を痛いほど知り、それを沢山の人と話し合い周りに伝える」ということが世界を平和にするための第一歩だと考えました。戦後 80 周年となり、被爆者の方の人数が少なくなってきた今、平和と戦争について考え、行動することが私たち子供ができる平和への第一歩だと信じています。





「 遠いものから身近なものへと変わった原爆 」

西根中学校 菊田 莉央

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

身近な人に広島原爆を経験したことがある人がいないので、現地に行って詳しく知って学びたいと思いました。

元々広島の出来事について、原爆が落とされたことは知っていたけれど全然と言っていいほど知らなかったのだから詳しく知れるチャンスだと思って本事業に参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

派遣事業で心に残ったことは2つあります。

1つ目は全国平和学習の集いです。グループディスカッションでは第二次世界大戦の時にあった郡山空襲の話をしたり、他県の被害についても聞きました。それぞれの県で空襲があり、どこも大きな被害を受けていました。最初に内藤さんの話を聞き、広島に原爆が落ちる前のことやお姉さんが亡くなってしまったことなどを聞いて、その当時は少しの差で生死が分かれるということを話を聞いて感じました。

2つ目は平和記念資料館を見学したことです。最初に見学したところには広島へ原爆が投下された時からの日数や、最後の核実験からの日数が記されていました。それを見た時に約 29000 日が経った今でもその当時の話を語り継いでいて、本当に歴史に残る出来事だったと改めて実感することができました。資料館の後半に進むと直視できないほどの痛々しい過去が見えてきました。それを見ていると自然と涙が出てきて、こんなことはもう 2 度と繰り返してはいけない、と身をもって感じました。



【私の平和への思い、平和への誓い】

私は本事業に参加して、被爆者の話を実際に聞いたり、県外の中高生たちと交流をして、当時の被害や戦争の悲惨さを目の当たりにしました。実際、私はこの事業に参加すると決めた時まで広島・長崎に原爆を落とされたことは知っていたけれどそれ以上の詳しいことを知らなかったのだから現地に行き、実際に話を聞いて、交流をして被爆当時のことを知ることができました。広島に行くまで詳しいことを知らなかったのだから、福島では被爆地のことや、戦争のことについてあまり学習をしていないと感じました。グループディスカッションの時にユース・ピース・ボランティアの人たちや他県の人たちとまだ全国各地に平和学習が広まっていないと話合いをし、世界でたった一つの被爆国として全国に平和学習を広めるべきだと感じました。もう、無差別に人を殺してしまうような、大事なものを失ってしまうような、こんな悲劇は繰り返さないと誓います。



「絶対に繰り返してはいけないもの」

信夫中学校 長瀬 凜

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

僕は自分で立候補して参加しました。広島については核爆弾が落とされたということしか分かっていませんでした。そこで学校から広島への派遣授業への参加募集のお知らせがあり、核爆弾の恐ろしさ、当時の人々の様子を知りたく参加しようと思いました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

一つ目は平和記念資料館で見学した事です。館内には核が落とされた当時の写真や衣服などの展示がありました。写真には傷だらけになっている、子供から大人までたくさんの人が苦しんでいる物がありました。衣服の展示には破れていたり沢山シワがついたものばかりでとても見るだけで心が痛むものでした。展示には、当時の子供の発言が記録されている展示があったのですが、自分よりも体が小さく、年も小さい子が自分が大火傷をしているのにも関わらず、お母さんを心配している言葉があり、とても考えさせられるものがありました。

二つ目は平和記念式典です。式典には大人の人から子供の人までが参加していました。大人の中には総理大臣などの偉い人も来ていました。改めてたくさんの人が来ていたことから、日本全体で原爆について考えていることがわかって一人一人が理解して考えることが大切だと思いました。



【私の平和への思い、平和への誓い】

僕は広島派遣に行って核兵器は辛く悲しく目を向けづらいものですが、だからこそ真剣に向き合っていくものだと思うことができました。当時被爆した多くの方々の話を聞いて、原爆の恐ろしさや大切な人を失う悲しさなどを受けた人がいることがわかりました。しかし当時被爆して原爆について話せる人はいずれいなくなると言われていることから、今回派遣に行った自分たちも今回の学びを活かし、みんなに伝えることができるようにしたいです。



「 ノーモアヒロシマ ノーモアナガサキ 」

野田中学校 渡邊 諒子

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が派遣事業に参加したきっかけは、祖父が戦争を経験していることを知ったからです。私の祖父は満州での戦争で中国から引き上げてきた、ということを知り、自分の身近な人が経験した「戦争」とはなんなのか、教科書からは分からないことを自分の目で見て、聞いて、知りたいと思いこの事業に参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

1番心に残ったのは、平和記念資料館の見学です。中には、当時の写真や絵、遺品、被爆した方々の悲痛な訴えが溢れるほど記録されていました。中には、原子爆弾の 3000～4000℃の熱線により焼けただれ、剥がれた皮膚を垂れ下げながら、助けを求める人、水を求める人、人が疑うくらい真っ黒に焦げた死体、何が入っていたのかも分からないくらい真っ黒になってしまったお弁当、ところどころ破け、中には原型も留めないくらいボロボロになった衣類、7 年後に見つかった大量の人の頭蓋骨、次々と出てくる戦争の記憶に「これが本当に日本なのか」と疑い、あまりにもひどすぎる状況に心が苦しめられました。中には、当時私達より小さい子供が、「おかあさん、おかあさん」と生死を彷徨う中、力の無い声で呼んでいたことが記されていました。核兵器は年齢性別関係なく人の生活と命を一瞬で奪う。このひどい状況は後世に語り継いでいくべきだと心から実感しました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私はこの事業を通して、原子爆弾の危険さ、戦争の危険さ、平和の大切さを自分の目で、耳で、心で知ることができました。被爆体験者が減少し証言の力が失われていく中で、今度は私達が、戦争経験者の切実な願いと核兵器を使わない、増やさない、そして「ノーモアヒロシマ ノーモアナガサキ」を力強く世界に訴えていくことが大切だと思いました。





「 平和って 」

吾妻中学校 稲村わかな

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が初めて戦争や原爆について知ったのは、教科書や絵本などでした。

私の中で戦争はどこか遠くの時代や場所、遠い話のように思えました。ですが、新聞を読んでいた時に戦争に関する特集が目に入り、起こってしまった戦争の真実や平和の大切さを自分の目で耳で心で感じ、学びたいと思ったため参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

一つ目は、平和記念資料館を見学したことです。資料館には当時の写真や80年前の服や物などがあり、まるで過去にタイムスリップしたような感覚になりました。当時の写真は目を背けたくなるような物がいくつもあり、心が痛みました。ですが、そのような写真も全て事実だという事に戦争の残酷さが伝わり、「三度起こすまじ原爆を世界の町に」という被爆者の方達の願いに深く共感しました。



二つ目は、全国こども平和サミットで全国の小学、中学、高校生の平和に対する取り組み発表の中での詩の朗読です。声に出して読んだ詩は言葉一つ一つに重みがあり、当時の人々の思いや感情が深く深く刻まれているんだなと感じました。また、平和に対する活動も自分と同じ年代でもできることは沢山ある、ということに一人一人が力を合わせ、正しい情報を知り、考えていくことができれば、未来はもっと明るいものになっていくのだな、と感じました。

三つ目は平和に対する自分の考えや思いを共有し合った平和学習の集いです。グループの中での議論は他の県の第二次世界大戦中の被害など、興味深い話ばかりでした。議論を通して、自分の住んでいる地域の事を知ってもらいたいと強く感じました。また、現在平和ではない状況とは何か。どのように解決できるのか。をテーマにした議論では自分とは違った視点の考えや感じ方を聞くことができ面白かったです。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私はこの広島派遣学習を通して、「当たり前」に生活して、「当たり前」に笑い合える、そんな「当たり前」がどれだけ幸せな事なのかを身を持って知りました。被爆者の内藤さんは原爆に対する憎しみ、悲しみはもちろんある。だが、そのような感情だけでは平和にはならない。だからこそ、当時の状況を伝え続けることが戦争から生き残った者の使命だとおっしゃっていました。私は、被爆者の方々の覚悟や願いを繋いでいくことこそが、実際には経験していない世代の私達の使命だと思います。そのため、少しでも多くの人に自分の口で、心で伝えていきたいと思うと同時に、私自身も「戦争」「平和」について知り、考え続けていきます。



中学生の私にできることは少ないかも知れませんが、自分の身近な人から伝えて一緒に考え、知らせていけば、世界は少しだけでも平和になると思います。

目を背けたい事実に向き合う勇気を。未来へ繋いでいくのは私達の番です。



「 原爆の恐ろしさ 」

松陵義務教育学校 笹川 叶成

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が広島派遣事業に参加した理由は、『ピカドン』という本を読んだことがきっかけです。その本を読んだのは小 5 の時でした。中 2 になった今、その本に描かれていた原爆が落ちた日の広島をもっと詳しく知りたいと思い、今回の派遣事業に参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

心に残ったことは二つあります。

一つ目は、1 日目に私たちが行ってきた広島平和記念資料館のことです。そこでは実際に被爆した物、被爆者の写真などを見てきました。被爆者の写真では原爆の熱風で皮膚が火傷でひどいことになっていたり、生気がないように感じ教科書には載せられていないような 80 年前の本当の広島姿を見てきたようでした。その他にも原爆の後遺症などの差別のせいで少しずつ壊れていく家族の話などを見て胸が痛み、原爆が終わった後も差別や後遺症などで苦しみは長く続くことを知りました。

二つ目は、2 日目に参加した第一回全国平和サミットのことです。平和サミットでは私たちと同じくらいの人たちが身近なことから世界のことまで幅広い視点で平和とは何か考えておりとても感心しました。特に学校のいじめをなくし少しずつ平和を作っていこうという発表には自分にも平和に関して何かできるかもしれないと思えました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私は今回の広島派遣事業で、戦争、原爆の被害を知り戦争などの争いは絶対に二度と会ってはならないと改めて実感し、戦後 80 年ということで戦争経験者が少なくなり伝えられる人が少なくなっている今、同じような過ちを防ぐためには学んだ全てのことを伝え受け継いで行ってほしいと思い、それに自分も大いに貢献していきたいと思いました。





「 広島で触れた平和 」

飯野中学校 丹野 楓

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私が派遣事業に参加した理由は、ひいおばあちゃんが福島で戦争を経験しており興味があったのと、教科書やニュースではあまりわからない、現地で体験した被爆者の実際の声を聞いてみたいと思ったからです。

また、広島県には今まで訪れたことがなかったため、訪れてみたいという冒険心もありました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

心に残ったことの一つ目は、平和記念資料館見学で見た多くの資料です。特に、当時の写真や当時の風景を表した絵は、その時の状況に加えて現場に居合わせた人々の心情も伝わり、見ているだけでとても辛くて怖くて、何度も目を背けたくになりました。見ているだけで辛いものでしたが、当時の人々はそれ以上に辛かっただろうと思いました。

二つ目は、平和学習の集いです。そこでは、当時生きていた方の講話や、他の県から来た同世代の方々とディスカッションを行いました。被爆者の内藤さんの講話は、聞いているだけでとても辛かったし、家族を失った悲しみや平和の大切さがよりよく分かりました。ディスカッションでは福島や広島以外の被害について知りました。その後、平和について話し合いました。多くの同世代の声を聞ける、有意義な時間になりました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

今この世界では、戦争や紛争が多くあります。武力に頼り、罪のない人が無差別に殺されていく状況です。日本の戦争は昔のように思いますが、後遺症で今も苦しんでいる人や、家族を亡くし辛い気持ちのまま生活を送っている人が多いです。私たちが平和のためにできることは、少しでも戦争や原爆のことを多く知り、多くの人に伝えていくことではないでしょうか。辛さや恐ろしさを多くの人に伝えられたら、世界は少しずつ平和へと向かっていくと思います。





「 私たちの生きる世界は 」

福島大学附属中学校 牛坂 心優

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私は広島が被爆したことについては知っていましたが教科書に書かれている内容や先生方からのお話でしか知ることができず、戦争で被爆した当時の本当の姿を知りたいと思ったので、今回この事業に参加をしました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が広島派遣事業に参加して心に残ったことは広島平和記念資料館でみた広島の人々の姿です。生き残っても家族を失い、生きる気力を無くしてしまった人、酷い火傷を負い動くことさえまななくても何とかして生きようとする人達の様子など、私が想像していたよりも更に悲惨で残酷なものでした。更に、被爆者の方からのお話を聞いたことで、戦争が実在していたことを実感できました。

【私の平和への思い、平和への誓い】

私はこの広島派遣事業に参加するまで戦争が起こらない世界を「平和」と呼ぶと考えていました。ですが、当時の人々の姿をみたり、全国から集まった中高生の皆さんとの交流を通して、世界全体が平和になることをお互いに望み合い、行動できることを「平和」と呼ぶと感じました。そして、これまでの戦争で亡くなってしまった方の分も私は平和を作るための行動を起こして行こうと思います。





「 知り、考え、伝える 」

桜の聖母学院中学校 秦 希咲乃

【派遣事業に参加した目的、きっかけ】

私の祖父は兵隊として戦争に行き満州へ渡りました。しかし、その話を聞く機会はあまりありませんでした。そして、日本はもう戦争は起きないし、戦争は辛いことだから知りたくないと思う自分がいました。しかし、これから戦争と平和について考えていく中で戦争について理解を深め、昨年日本舞踊の事業で石川県に行ったときに感じた、「自分の目で見て聞いたからこそわかる事がある」という事を実行して平和を真剣に考えたい、そして体験談を伝えたいと思い参加しました。

【派遣事業に参加して心に残ったこと】

私が心に残ったことは3つあります。

1つ目は、梶矢文昭さんの体験談です。実際に体験した人にしか話せない、醸し出すことができない重さと生々しさがありました。そして、一瞬の判断で生と死が左右されるということを知りました。その時に、広島派遣事業に行く前に行った福島県立美術館の福島県から戦争に行った方達の話が集められた「私達の戦争体験」という企画展でみた、兵隊さんの「自分が銃で撃っていたが疲れたから友達に変わった途端その友達が撃たれて亡くなった」という体験談による「戦争は運だ」という言葉を思い出し、とても切ない気持ちになりました。

2つ目は、平和式典に参加したことです。子どもたちの平和への誓いを聞いて、広島の子どもたち 20 名の思いが詰まったその言葉に感動するとともに私もほんの少し、行動してみたいと思いました。

3つ目は、平和記念資料館に行ったことです。子供の被爆者の遺品や、皮膚が焼けただれた方、黒焦げの遺体など、ショックを受ける内容のものがたくさんありました。それを見て、こんなにショックな内容だからこそ、忘れてはいけない、目を背けたくなるけど、見て、まなばなければいけないと強く感じました。



【私の平和への思い、平和への誓い】

私はこの事業に参加して、これまで私が思ってきた当たり前と、同じ国に住む昔の人達の当たり前との差を目の当たりにし、爆弾に怯えずに自由に過ごすことができる私のあたりのありがたさ、その当たり前が存在しているということの奇跡を知りました。そして、平和記念式典に参加し、爆心地を歩き、たった 80 年前、この地に爆弾が落ち、血を流して死んでいった方々がいるという事実にはショックを受けました。私は、今は幸せだし、平和な環境にいると思います。自由に過ごすことができていると感じます。でも、同じ日本に今住んでいる人でも、虐待を受けていたり、束縛されていたり、精神的暴力を受けていたり、不安を抱えている人がたくさんいるということに、この事業を通して気づきました。

今平和な環境にいる私にできることは、これから出会う沢山人々にこの体験を話し、すごく辛い内容だったり、目を向けるのも苦しいですが、戦争と向き合い、戦争と平和を知り、世界中の人々と平和について考え、まずは身近な人と平和について考えて共有することだと思います。また、私達は日本の戦争の被害を知ることに考えが行きがちですが、他の国の戦争や、他の国の方の気持ちも調べたいと思っています。いつか世界中の人と地球温暖化についても考えることができるように、笑い合うことができるように、そんな世の中になったとしても、過去の戦争が忘れられることがないように、二度と戦争がおこらないように、私にできることを探して戦争と平和について考え続けたいです。